西濃

パリ郊外・アントニーにて
光風会　森　照造
（海津市南濃町）

大垣支局
〒503－0893
大垣市藤江町6－82－4
0584（78）2030
Fax（74）6460
養老通信局
0584（32）0699
Fax（32）2740
揖斐川通信部
0585（22）1150
Fax（22）0735
岐阜支社
〒500－8875
岐阜市柳ケ瀬通一丁目12番地
058（265）0191
Fax（262）8706
（販売）（265）0265
（広告）（266）4791
（事業）（265）0267

医療法人
平野
〒503-1113
岐阜市黒野一七

西遊記 2017

平井　剛記者

養老町内の住宅 6割強が築30年以上

空き家急増の恐れ

養老町内の住宅は、築五十年以上が二割強あり、築三十年以上に範囲を広げると六割強に上ることが、養老ユニオン住宅の調べで分かった。築年数の深さが一概に悪いとは言えないが、建物が現行の基準に合わなかったり、耐震性に乏しかったりするケースが多いだけに、ユニオンは「適切に管理されなければ、今後、空き家が急増する恐れがある」と警鐘を鳴らす。

養老ユニオン住宅は建築業に携わる町内の専門家たちでつくる任意団体。昨年一月から一年かけて町内全ての住宅を実地調査し、結果を今月七日のセミナーで公表した。

住宅総数八千七百九十一棟のうち、築五十年以上は千九百三十一棟（22％）、築三十年以上五十年未満は三千六百三十九棟（41・4％）。地区別では高田が千二百十棟のうち、築五十年以上が四百七十一棟（38・9％）と〝高齢化率〟が最も高かった。

調査はあくまで目視で、住民への聞き取りはしていない。伊藤嘉美理事長（六六）＝ダイモ住建社長＝は「数字が100％正確とは言い切れないが」とした上で、「住宅のプロが家の高さや屋根瓦、トタンの色や形などを見れば、おおよその築年数は分かる」と言う。

古くなった住宅を将来の空き家にしないためにはどうすべきか？　「それには定期的な修繕が必要だ」と、古民家鑑定士の高橋義孝さん（五二）＝大垣市＝は説く。今回の調査に協力し、町内をくまなく見て回った一人だ。

古民家鑑定士は、築五十年以上の住宅を六百項目点検し、その状態を評価して、将来にわたって使えるかどうかを判断する人。

高橋さんは「お宝になりそうな古民家が山側（養老地区）にはたくさんあった」と話す。

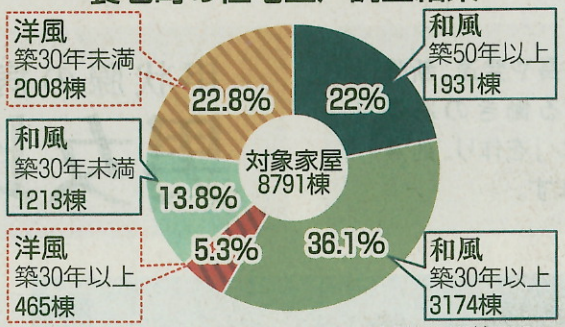
古民家を観光に生かした兵庫県篠山市の事例など、資源として活用する動きも各地である。高橋さんは「古い住宅をそのままにしておけば、やがて人が住めなくなって、空き家になる。取り壊すのは簡単。だが、それに手を加えて残すことで生まれる価値もある」と主張する。

養老ユニオン住宅は今回の調査結果を町へ報告し、二つの提案をする。一つはこれから結婚を考える人が自分の家を改築する場合、町がリフォーム費を補助すること。もう一つは空き家が出た場合、移住を希望する人に無料または廉価で貸し出せるよう町が相談窓口になること。

伊藤理事長は「古い住宅でも利用できる方法はある。空き家に若者が住んでくれたら町の活性化になる。提案をぜひ参考にしてほしい」と話す。

建築年数が経過した住宅が立ち並ぶ養老町高田地区

養老町の住宅全戸調査結果



※養老ユニオン住宅調べ。小数点第2位を四捨五入